

2041点の魅力



美濃陶磁歴史館 最後の企画展

現在、市では、美濃焼と土岐市の歴史を伝え未来につなぐ博物館、人が集いにぎわいをつくる博物館を整備する事業を進めています。

新博物館の建設のため、3月末をもって休館する美濃陶磁歴史館では、最後の企画展を開催しています。この企画展では、美濃桃山陶を含む国重要文化財2041点の陶片の全点展示に初挑戦しました。美濃桃山陶が生まれた時代は、器が道具に留まらない価値を持つようになった時代です。今また、新たな価値の創造が求められている時代に、美濃焼、そして土岐市の過去と未来をつなぐ「やきもの」が放つ、圧倒的なボリュームに触れてみませんか。

☒ 文化スポーツ課(内線356)

あなたはどう見る？

土岐市が持っている全て /

重要文化財 2,041点 並べました



企画展の見どころをご案内します



美濃陶磁歴史館 学芸員 鍋内



およそ400年前、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康といった三英傑が活躍した安土桃山時代から江戸時代初頭にかけて茶の湯が流行していました。「国史跡元屋敷陶器窯跡田織部の好みに沿った器「黄瀬戸、瀬戸黒、志野、織部」かとして、京都や堺の茶人たちの間で、もてはやされました。美濃陶磁歴史館の休館前、最後の企画展では安土桃山時代を中心とした市が所有する2,041点の国指定重要文化財を一挙に並べる挑戦をしてみました。

た三英傑が活躍した安土桃山時代から江戸時代初頭にかけて茶の湯が流行していました。「国史跡元屋敷陶器窯跡田織部の好みに沿った器「黄瀬戸、瀬戸黒、志野、織部」かとして、京都や堺の茶人たちの間で、もてはやされました。美濃陶磁歴史館の休館前、最後の企画展では安土桃山時代を中心とした市が所有する2,041点の国指定重要文化財を一挙に並べる挑戦をしてみました。

色で見る

織部の里公園にある4基の窯跡（1号から3号の大窯と1つの連房式登窯）から出土した陶器は、安土桃山時代を象徴する陶器「黄瀬戸、瀬戸黒、志野、織部」が全て揃っています。窯によって作っていた陶器が違ふんですよ。



連房式登窯
窯の温度を長く保てるので、織部の緑色の釉薬がよく溶けました。

1号～3号の大窯
黄色、黒、白、それまでになかった色の器が、この大窯で生まれました。

形で見る

美濃桃山陶が生産された時代は、これまでの唐物（中国の陶器）が一番だという考えから脱却した時代でした。特に茶わんの形の進化は著しく、大胆な歪みを加えたものなど自由なものへと変化していったんです。茶懐石用の食器もバリエーション豊かです。

歪みが美しい！



何の形をモチーフにしたのかな…

文様で見る

鎌倉時代、室町時代に一般的に使われていた釉薬「灰釉^{かいゆう}」と並行して「長石釉^{ちようせきゆう}」が発見されました。これによって日本初の白い焼き物「志野」が誕生し、釉薬の下に絵（文様）を描く「下絵付け」の技術が発展しました。

古風だけど斬新な文様が見られます。どんなものか描いたのか当ててみるのも楽しいですよ。



白い焼き物「志野」。
下絵が書いてあるね

何の生き物でしょう？

京都市立芸術大学では、桃山デザインに着想を得た学生による作品制作が行われています。
※詳しくは本紙22ページで紹介しています。

道具を見る

実は、窯道具も重要文化財として指定されているんです。どう使われていたか見てみると、当時の人の工夫が垣間見えますよ。



サメの歯？

何に使っていたか当ててみて！

これは茶わんじゃないの？

休館前最後の企画展

開館44年収集の軌跡Ⅲ **挑戦！重要文化財2,000点並べてみる**

3月31日(日)まで開催

※3月20日(水・祝)からは無料開館

企画展の詳細は美濃陶磁歴史館ホームページや本紙22ページで紹介しています。

☎ 美濃陶磁歴史館 (☎55-1245)

